



## ◆把手付陶器香油瓶(写真4)

(地中海東岸 紀元前4世紀)

当時の地中海東岸は、アレキサンダー大王がエジプト制服に向かうために通っています(紀元前332年)。その頃に使われていたとされる、陶器製の香油瓶です。写真3、4とも紀元前に使われていた貴重な資料です。



写真3. コアグラス香油瓶

## ◆人物文鼻煙壺(写真5)

(清 18世紀後半～19世紀前半)

嗅ぎタバコは、鼻の穴に直接タバコの葉をつけて、香りを楽しむものです。これは、当時の貴族が使っていた嗅ぎタバコの容器です。上部のふたを取ると、たばこを取るスプーン上の道具がついています。



写真4. 把手付陶器香油瓶

## ◆ペンダント型香水瓶(写真6)

(フランス 1790年頃)

時代的には、フランス革命真っ只中の頃の香水瓶です。このようなカットガラスは、17世紀後半にイギリスでクリスタルガラスが作られるようになってから、出回り始めたもので、18世紀には、大いに人気になったデザインです。この香水瓶の中に、濃いラベンダーのオイルなどを入れていたそうです。当時の上流階級の女性はウエストをきつく締め付けるコルセットをしていたため、あまりの締め付けのため、失神することもあったそうで、この中のラベンダーオイルなどの香りを嗅がせて、意識を取り戻させたそうです。

香料が、なんともワイルドな使われ方をしていたものです。



写真5. 人物文鼻煙壺



写真6. ペンダント型香水瓶

現在も、香水瓶には様々なデザインが施され、購買意欲を掻き立てる要素の一つになっていますが、当館の企画チームの永原さんがデザインしてくれた、写真1のオリジナルアトマイザーも捨てたもんじゃないでしょ？

小野 昌弘(科学館学芸員)